

第3回 ESGファイナンス・アワード・ジャパン



環境サステナブル企業部門 特別賞

株式会社ジェイテクト

## 環境効率の基本式を 独自の指標として 実践する



安全環境推進部部长 兼  
カーボンニュートラル戦略室室長  
吉田 賢吾氏

一貴社は、「カーボンニュートラル実現への貢献（他社の脱炭素化を後押しする（イネーブラー）技術）」の観点から、特別賞を受賞されました。受賞理由となった取組みを御紹介いただくとともに、特別賞の受賞についてのコメントをお聞かせください。

ジェイテクトでは、パリ協定が批准されたことを受け、2016年に「ジェイテクト環境チャレンジ2050」を公表し、2050年のCO<sub>2</sub>排出量の極小化を宣言し、その後2020年には、ジェイテクトグループ全体で2040年カーボンニュートラル達成を、翌2021年にはカーボンニュートラルの達成時期を5年前倒した2035年とし改めて公表いたしました。この道のりは非常に困難ですが、生産におけるCO<sub>2</sub>排出量削減活動を基本に据え、生産技術の革新と工場における日常改善を進め、加えてオンサイトにおける再生可能エネルギー導入という3本柱で取り組んでいます。またScope3においては、以前より当社ではお客様の製品使用段階におけるCO<sub>2</sub>排出量削減として、製品によるCO<sub>2</sub>削減貢献量を2025年度までに165千t以上（グローバル単年）とすることを目標として掲げ、各自動車会社様と製品の開発・設計において深く関わり持ちながら日々改善を進めております。企業は資材調達からお客様の製品使用、廃棄までを見据え、環境負荷を軽減するための技術開発、再生利用・再資源化しやすい設計等に取り組んで行く責任があります。製品の環境負荷低減効果を数値で評価できるように環境効率の基本式を独自の指標として定め、実践している点も受賞に至った理由と聞いており、私たちの活動が認められたことは大変光栄であります。

今後もジェイテクトはJTEKT GROUP VISIONのもと、地球規模の「エネルギー・環境問題」を解決に向け、これら社会的課題を一丁目一番地に位置づけ、「All for One Earth」をスローガンに全社を挙げてカーボンニュートラルの達成に取り組んでいきます。

一今年の貴社の環境/サステナビリティ情報開示で注目すべきポイントをお教えてください。

ジェイテクトグループ全体でのカーボンニュートラル達成時期の前倒しと加速させる取組み内容を掲載しています。例えば廃棄物削減の管理指標も、CO<sub>2</sub>の削減量と関連付け、省エネと省資源の2つの活動を統合させました。また、気候関連財務情報開示タスクフォース（TCFD）についても、シナリオ分析の結果や2050年の財務影響を開示しています。さらに「GXリーグ基本構想」や「経団連生物多様性宣言イニシアチブ」への賛同、環境省「生物多様性のための30by30アライアンス」への参加も新たに取り組んでいます。

一企業規模や業種特性に応じた特定の重要な環境課題等に対し独自性のある取組みを進めている/進めようとしている企業の皆様に、情報開示等についてアドバイスがあればお願いいたします。

ジェイテクトではステークホルダーの皆様と様々な手段を用いたコミュニケーション活動を行い、声を聞くことを大切にしています。コミュニケーションを通じて得られたステークホルダーの皆様からのご意見、ご期待についてはジェイテクトの環境方針や取組みに反映し、環境チャレンジ2050の実現と企業の社会的価値の向上に向け、更なる活動の発展と充実を図っています。

毎年対外的に発行している環境報告書では当社の環境に対する考え方や活動について、分かりやすくお伝えする目的で制作しており、客観性・網羅性・継続性を重視した内容になっています。環境チャレンジ2050の達成に向けた中期目標「2025年環境行動計画」に基づいて過年度の環境的な側面を開示しており、ステークホルダーの皆様にはわかりやすくご理解いただけるようにしています。